



大川(桜之宮付近)

水辺のある都市の魅力

堀井 初夏の日射しの下、二見さんには日焼けがちょっと申し訳ないのですが、少しの間おつき合いを。さて、大阪は面白いことに20年ごとに都市の節目を迎えています。1970年の大阪万博、1990年の国際花と緑の博覧会、そして今年の『水都大阪2009』。今回は、大阪の水の回廊というユニークな特性を生かして、まちの魅力をもっと磨いていこうという運動の幕明けであり、今年を水都大阪のシンボルイヤーとして位置付けています。まずはレディーファーストで、水都大阪への思いなどを。

二見 今日はお天気も良く気持ちいいですね。たまに船に乗る機会があり、ここから見る夜景が好きです。私は祖父母の代から大阪の生まれ育ちで、祖父から道頓堀で泳いだことや大川に水練学校があった話を聞きました。私の子どもの頃はすでに汚れていましたが、今、だんだん水質がきれいになっていくことをとてもうれしく思っています。

伴 大阪の都心部の川は「臭い、汚い」と言われ続けてきましたが、ここ数年でかなりきれいになってきました。大川の水をすくってお見せすると、その透明度に皆さん驚かれますね。大阪は、これまでみにくいアヒルの子だといわれてきましたが、本当は白鳥になる都市。そろそろ自慢していいと思います。

佐藤 私が大阪の川と最初に関わったのは、昭和58年の大阪城築城400年まつりでした。京阪グループで水上バス事業をはじめたんです。長く赤字でしたが、

なんとか頑張って今やっと花が開きつつあります。だから水の都大阪に対する思いは強いですね。

堀井 昭和58年といえば、当協会の初代・松下幸之助会長が大阪21世紀計画を宣言し、その翌年に大阪21世紀協会が発足して、大阪の都市格向上を志した年です。

伴 私の父は、戦前、大阪商船に勤めていました。会社のあった中之島の大ビル(大阪ビルディング/1923年築)はハイカラな建物でしたが、冷房設備がなかったものですから、夕方になると船を出して、ときにはお茶屋さんから芸妓さん呼んで夕涼みを楽しんだと聞きました。

佐藤 夕涼みといえば、昨年、ビーチバレーの関係者を集めて、船にワインを持ち込んで中之島を一周しました。きれいな夜景に感激しましたよ。とくに外国人たちが喜んでいました。

堀井 市民の楽しみはもちろん、観光客に「大阪に行ったら、必ず船に乗る」といわれるほどにしたいですね。私は東京からのお客さんを案内するとき、船に乗るコースを入れています。別れ際に大阪のどこが一番印象に残ったかを聞くと、皆さん異



口同音に「船が面白かった」っておっしゃいます。水の回廊を、観光資源としてもっと磨く必要を感じますね。緑の要素も欠かせないと思います。

二見 東京の都心の川は護岸がとても高く、船に乗っても谷底にいるようで居心地が悪い。一方、大阪の川は東京に比べてずっと開放的ですから、風景が楽しめます。場所によって樹木の種類を変えたり、エリアごとに緑を主体にしたり、建物を主体にしたりすることで、まちの彩りや印象が随分深くなると思います。また、夏の気温は東京に比べて大阪は2~3度高い。それも水辺を生かすことで、ずいぶん涼しくなりますね。

堀井 木津川には柳、大川には大阪市の市花の桜、中之島はバラというようにね。東横堀川は高速道路でふさがれていますから光を使った景観整備、道頓堀川ではネオンが繁華街の情緒を醸し出す。そんなデザイン感覚を利かせて水の回廊に磨きをかければ、それぞれの川に個性ができて、売り込みやすくなるでしょう。

佐藤 緑があれば蝉の声も聞きたい。南フランスのプロバンスにいったとき、土産物店の主人が「パリに蝉はいないが、ここにはいる」って自慢していました。中之島の木々が育って蝉がいっぱいいて、「中之島には蝉がいるけどシテ島にはいないだろう」と自慢したいですね。

二見 ワンドをつくってヨシなどを植えると、野鳥もやってきますね。私は今、大阪国際会議場近くの護岸整備事業に携わっていて、そこに多孔質の石張りの護岸を作

二見恵美子(ふたみ えみこ)氏

1987年、E.M.Iプロジェクト設立。都市景観コンサルティングをはじめ、音楽や美術のプロデューサーなど活動は多彩。2006年には大阪水都ロマン・ベシヤルコンサート(主催・大阪市)を企画。著書『二見恵美子のLANDSCAPE STYLE(パールバック出版)』他。